

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																							
ES11A006		子ども支援の実践研究(Practical Studies on support for Children Mental Health)					共通科目																							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																								
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 今村裕、古庄一夫 E-mail imamurayutaku@oita-u.ac.jp furusyo@oita-u.ac.jp e-maki@oita-u.ac.jp 内線 6135 (今村), 6146 (古庄), 6137 (牧)																								
授業の概要	本授業においては、子ども支援に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																													
具体的な到達目標																DP等の対応(別表参照)														
目標1 教育相談に関する実践的知識について深く理解する。																1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2 不登校児童生徒の理解に関する実践的知識について深く理解する。																														
目標3 学校現場の事例を題材として、現状の課題を発見する。																														
目標4 学校現場の事例を題材として、現状の課題に対して、具体的な対応策を立案・検討することができる。																														
目標5																														
目標6																														
目標7																														
目標8																														
目標9																														
目標10																														
授業の内容																														
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																														
2 描画法(三枚画法自己紹介)による自己開示																														
3 描画法(三枚画法自己紹介)による自己開示																														
4 描画法(三枚画法自己紹介)による自己開示																														
5 描画法(三枚画法自己紹介)による自己開示																														
6 描画法(三枚画法自己紹介)による自己開示																														
7 自己開示の意義と活用																														
8 学校教育における事例研究の意義																														
9 事例研究 - P C A G I P法																														
10 事例研究 - P C A G I P法																														
11 学校における「秘密の心理」																														
12 事例研究 - P C A G I P法																														
13 不登校児の時間意識																														
14 事例研究 - P C A G I P法																														
15 不登校児童生徒の理解と支援																														
ラ ア ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認					B:意見の表現・交換					C:応用志向					D:知識の活用・創造					リレー発問、ディスカッション、ピアレスポンス					工夫その他の				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教員が提示する事例等について、関連資料を調べたり、自分の意見を整理したりする。																												
	事後学修	演習において討議した内容を整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して到達点を整理する。																												
教科書	特になし。授業中に指示する。																													
参考書	生徒指導提要(平成22年3月)																													
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																		
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度, 課題に取り組む姿勢, 討論への参加等)	70%																												
	最終レポート(本授業において学んだことや今後解決すべき課題等)	30%																												
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																													
備考	現職院生が実践経験の中から個に応じた指導に関する事例等について紹介し、学部卒院生との討論やグループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。																													
リンク	URL																													